

2025年9月1日

南郷っ子

南郷小学校

No. 3

〒289-1313 山武市上横地 884-1

Tel 0475-82-2669

Fax 0475-82-2197

「学ぶこと」とは

校長 長谷川 峰史

長い夏休みが終わり、校舎内に子供たちの元気な姿や声が戻ってきました。やはり、「子供たちがいてこそその学校」という思いを強く感じているところです。

さて、今回は前回で述べた子供たちへの3つのお願いの一つ「学ぶこと」について述べます。

本来、「学ぶこと」は子供たちにとって主体的な活動であり、決して受動的(受け身)な活動ではないと思います、その一方で、学ぶことを受け身(やらされている)な活動と感じている子供は少なくないように思います。では、子供たちの学びを主体的な活動にするためにはどうしたらよいのでしょうか。私は、次の三点が肝要だと思います。

- 「学び」の出発点として「必要感」をもつこと。
- 「学び」の過程・結果を通して「達成感や充実感」を得られること。
- 「学ぶ」ための「模範」が身近にあること。

まず、「学び」の出発点として「必要感」をもつことについて述べます。「学ぶ」ことの出発点は、“どうして・なぜ”と感ずることだと思います。このような問いを自分なりにもち、その答えを見つけようとするところこそ、学びの第一歩と考えます。また、この問いは子供たち自身の中に答えを導くための“必要感”を生じさせます。この必要感こそが学ぶための大きな原動力であり、この学びを主体的な活動へとつなげていくための大きな要因と考えます。

次に、「学び」の過程・結果を通して「達成感や充実感」を得られることについて述べます。一学期のことです。「計算が苦手だったけど、今がんばって〇点とれた!」「漢字が得意!」「理科の実験が好き!」「絵を描くのが好き!」「ダンスが得意!」等の言葉を校舎内でふと会った子供たちが聞かせてくれました。そのことをうれしく思うとともに、「がんばった成果が出ていること・好きなこと・得意なこと」を話すその表情はどの子も自信に満ちていたり生き生きとしていたりとても素敵なおもひでした。これらのことから、子供たちにとって、学びを通して得られる「達成感や充実感」が大切であることを強く感じるとともに、本校が南郷っ子のこの素敵なおもひで満ち溢れるように努めていきたいと思っています。

最後に、「学ぶ」ための「模範」が身近にあることについて述べます。さて、「学ぶ」の意味について、本校の図書室にある「国語辞典 新版小学 監修 柴田武」で調べたところ、その中に「まねをして身につける。」とありました。つまり、「学ぶ=まねをする」とも言えます。このことから、子供たちが主体的に学ぶためには「まねてみたい」と思える存在(模範)が身近にあることが重要です。その意味から、今後も本校職員個々が子供たちにとってそのような存在となり得るよう努めていきたいと思っています。

今日から新学期が始まります。「学び」を含む子供たちのさらなる成長を目指し本校職員、邁進してまいります。今後も、本校への深い御理解と御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

